

花と緑の銀行だより

174号 2010.1



ウメモドキ／砺波市

目次	・花と緑の提言.....	2	・技術講座.....	6
	・市町村の事業紹介.....	3	・この人あり.....	7
	・緑づくりコーナー.....	4	・お知らせ.....	7
	・活動事例.....	5		



『新年のあいさつ』

富山県農林水産部長 寺井 幹 男

明けましておめでとうございます。

輝かしい平成22年の初春を皆様とともに
に寿ぎたいと思います。

花と緑の銀行には、置県90周年にあたる昭和48年の設立以来、花と緑の普及啓発や緑化指導者・緑化グループの育成、花壇づくりの推進など、花と緑に満ちあふれた地域づくりの推進に多大なご尽力をいただいております。

おかげをもちまして、地域ぐるみの緑化活動が活発に展開され、県内各地の公園、学校、公共施設、道路などが花と緑で美しく飾られ、心豊かな地域づくりが着実に進んでおります。

これもひとえに、地域の先頭に立って活動いただいている地方銀行頭取やグリーンキーパーの皆様、そして県民の皆様のご支援、ご尽力の賜物であり、心から敬意を表し、感謝申しあげます。

日本経済は厳しい景気雇用情勢が続き、明るい兆しは未だ見えません。政治も政権交代により、従来の事業が否定されるなど、道のない原野を進むような不安定感があります。

このような時代にこそ、花や緑で心を

なごませ、日々の生活や仕事に向かう元気を回復していくことが重要であると思います。

幸いにして富山県には恵まれた自然、花と緑の銀行活動によって育った多くの地域人材があります。昨年の県政世論調査の結果では、「豊かで美しい森づくり・花と緑の地域づくり」が2年連続で満足度の高い施策の第1位となりました。このことは、37年間にわたる銀行活動の成果が実を結び、うれしく思うとともに、関係の皆さんのご尽力に改めて感謝申し上げます。

今後とも、県民のだれもが花と緑に囲まれ、潤いと安らぎに満ちた花と緑の地域づくりに全力を尽くしたいと考えています。そのためにも、地域における一人ひとりの緑花への積極的な参加と取り組みが不可欠です。皆様方の一層のご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

おわりに、皆様方の今後ますますのご健康、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申しあげまして、新年のあいさつといたします。



立山支店の活動紹介

立山支店長

立山町長 **舟橋 貴之**

立山支店では、13の地方銀行において、頭取・グリーンキーパーが、町内会・老人クラブの方々と協力しながら、駅・地区公民館・小学校などの公共施設の花壇づくりや道路沿いの花壇づくりで、花と緑にあふれたうるおいある地域づくりをめざして活動を展開しています。

五百石駅前花壇や釜ヶ淵駅プラットホームでは、季節にあった花苗等を植えたプランターや花鉢を設置し、通勤・通学者に対して植物の持つ癒し効果が発揮されており、「立山・黒部アルペンルート」の玄関口である立山駅前では、県内外から訪れる観光客のために「うるおいある花とみどりの広場」を提供しております。



県道富山・立山公園線の大石原地内では、地区が一体となって、多数のプランターを設置し、信号待ちのドライバーや自転車通学の学生の皆さんにこころのやすらぎをあたえており、交通安全にも一役かっています。



県道西大森・五百石線（通称「スーパー農道」）の沿線にある大森花壇では、自治振興会からも助成をいただき、地域の各集落の方々とともに、670㎡の花壇やプランターの維持・管理を行い、夏場の水やりや除草作業に配慮し、カンナやサルビアを生き生きと咲かせています。



栃津川桜つつみ公園整備実行委員会では、町の中央部を流れる栃津川堤防で、平成12年より桜の植樹を続け、桜つつみの復興をめざしており、現在約500本となっています。本年は、立山花とみどりの少年団とともにソメイヨシノの苗木の植樹を行い、次世代へとひきつぐ「花と緑を愛する豊かなこころ」の育成にもつとめています。



夏場の水管理、花壇の維持には、各地方銀行、花と緑の愛好家グループの方々のボランティアに依存するところが大きく、構成員の減少や高齢化等にともない、新しいメンバーの確保や協力が求められています。

庭木に利用する樹種の特徴と管理、 特にアカマツ、クロマツについて

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村正史

前回、富山県の庭木としてよく利用されている樹木とその管理について紹介しましたが、住宅の庭によく利用されているクロマツとアカマツ（以後、マツ類という）については、問い合わせが多く寄せられています。そこで、今回は代表的な問い合わせとその対策について紹介したいと思います。

1. 年を重ねる毎に徐々に樹勢が衰えていく原因とその対策

- ・マツ類を植えた時は庭の中で最も陽当たりの良い場所に植えたはずなのですが、年の経過とともに周囲の樹木の方がマツ類よりも大きくなっていくと、陽当たりが極端に悪くなってしまいます。そうなれば樹勢は衰え、最終的には枯れてしまいます。このような時には、周囲の大きな木の枝をすかし太陽の光がマツ類に届くようにすると、樹勢は容易に回復します。マツ類は太陽の光を好む樹木です。
- ・住宅を建てる際には敷地を重機で固めます。庭に樹木を植える際には、さらに土壌を盛って植えるのが通常です。ところが、マツ類がだんだん大きくなるにつれて根も成長して大きくなり、元の敷地の部分まで伸びていきます。ところが、元の敷地の土壌は強く固められているので、水の通りが悪くなっており、後で盛った土との境のあたりには水が停滞して、過湿状態になっています。そのため、根が腐り、養分や水を吸い上げることが困難となり、衰弱していきます。このような時は、水はけを良くし、固まった土壌を改良することが大切です。
- ・順調に成長しているのに、マツ類の周りに土壌を盛ると徐々に衰弱していきます。これは土を盛ったために、根が呼吸困難に陥って枯れてしまうためです。盛り土は止めましょう。

2. 急に枝枯れが発生したり、木全体が衰弱したり（あるいは枯れたり）する原因とその対策

- ・土壌条件はよくて病害虫も見あたらないにも関わらず、上記のような状態になったマツ類の相談を受けます。その場合の原因の多くは強度の剪定です。剪定のため葉の量が極端に減り、光合成能力が著しく低下するためです。これは害虫が葉の大半を食べたことと同じことです。強度の剪定には注意しましょう。

3. 夏から秋にかけて急激に葉が萎れ赤くなって枯れていく原因とその対策

- ・これはマツノザイセンチュウによる松枯れです。このような状態に至ったマツ類を助けることはできません。マツ類をこの被害から守るには、7月頃に数回スミチオン乳剤を樹冠に散布するか、胸の高さ当たりの幹に殺線虫剤を3月頃に注入するか、いずれかの方法をとる必要があります。

マツ類に異常が発生した場合の原因と対策を紹介しましたが、大切なことはいつもマツ類の状態を観察し、異常が見つければ早期に原因を明らかにして対策を実行し、下の写真のような健全な状態を維持することが大切です。



花いっぱい 2年連続最優秀賞

射水市立小杉西部保育園
園長 堀田真弓

1 保育園花壇のあゆみ

当保育園では、17年前から地区のグリーンキーパーさんの指導のもとで職員や保護者会の方々と花壇の活動に取り組んでいます。

門扉から玄関までのプロムナードに沿って花を植えることで心が和むようにとの思いでスタートしました。

花の成長や変化を楽しむことは、親子の会話を豊かにし、コミュニケーションを深めることになり、又生命のある植物を慈しむことで、優しさや思いやりが育つと共に感性豊かな子どもの育成につながると思っています。



花壇に集まる昆虫に惹かれ歓声を上げる子ども達、送迎時に植物の名前を一つずつ覚えていく親子のほほ笑ましい姿が見られます。

季節によって咲く花が違い、それぞれに楽しませてくれています。今年新たに、園庭に面したベランダにグリーンカーテンとして年長児が、24個のプランターにアサガオを植えました。グリーンキーパーさんの指導や協力のもとに初めて取り組んでみました。

子ども達は、アサガオが咲くごとにみんなで花の数を数えて喜んだり、秋には積極的に種取りをして、来年度の植え込みに期待し、今から楽しみにしています。



子ども達は、アサガオが咲くごとにみんなで花の数を数えて喜んだり、秋には積極的に種取りをして、来年度の植え込みに期待し、今から楽しみにしています。

2 活動の状況

門から玄関に細長く続く広い花壇は、まず水はけをよくし土作りに努めています。そして、支給苗や花壇にある葉物や樹木を



利用したり、メドーセイジや黒ダリア、ギボウシ等数種類の宿根草を中心に、花

の高低に留意し、どこから見ても花を楽しむ立体的な花壇を考慮しています。又花の色については、咲いた時をイメージし、質感とともに配置を決めています。



3 自然とのふれあい

保護者の方々は、子どもの送迎時を利用して、枯れた花や葉の摘み取り作業をされています。その摘み取った物で、園庭でままごとや色水遊び、染め紙遊びをするなど遊びが益々広がります。

花壇に平行して、プランターに夏野菜を植え、収穫の喜びを味わったり、保育園での給食に取り入れたりして、食育にも役立っています。

これからも地域の方達やグリーンキーパーの方との

連携を密接に図り、花壇づくりをしていこうと思っています。



ステップアップ研修を受講して



射水市本江地区頭取
曾戸美智雄

市農林水産課より、頭取、グリーンキーパーステップアップの研修を受講しませんかとの話があり、私も花壇の世話をしていましたので2～3日なら参加出来るかと軽い気持ちでした。研修日程表を見ると20回の研修日があり日程の調整が大変でした。

初日には研修不安の声が聞かれたように思いましたが、研修回数が増すごとに皆さんがだんだん元気に積極的になり、楽しい会話もはずみ意見も聞かれるようになりました。女性の受講者が多いことから研修成果の裾が広がって行くのではないのでしょうか。私も50数年前に植物等の教育を受けましたが、今回、職藝学院教授渡邊先生をはじめ講師先生方のお話をお聞きして少しづつ記憶が蘇って来ました。毎日が楽しく次回は何の勉強が出来るか待ち遠しくなりませんでした。渡邊先生の花に対する情熱がひしひしと伝わって来ました。

講義では、花壇作りは土作りから始まること、草花が必要とする養分の供給、デザイン、宿根草と一年草との配分、組合せ、切り戻しのテクニック等基本知識を具体的にお話しされました。現地実習では、実習内容と花の状態を記録することでより一層勉強になることを教えて頂きました。

講師先生方の講義では、花づくりは人づくり、学校教育での花づくりは生徒に技術教育は無論のこと、人に対する優しさ、人との輪、物の考え方など高い教育効果を持つとの話がありました。また、花と緑の癒し効果や日本で絶滅が危惧される植物、ワシントン条約等による野生動植物取引きの取り決め、日本と西洋との花壇の違い、家庭で手軽に出来る樹木の管理、雪吊りと落葉樹の剪定方法等、多くを学び非常に勉強になりました。研修で学んだことを地元本江フラワー同好会の会員にも説明しました。

21年は花には過酷な気象でしたが、何とか見られる花壇が出来ました。これからも渡邊先生はじめ各講師先生から受けた教えを思い出しながら、地域に緑化活動の輪を広げたいと思います。

研修された仲間の皆さんと楽しく勉強できました。皆様に心から感謝申し上げます。

楽しかった研修



入善支店グリーンキーパー
西田末子

今年こそと、自分のスケジュールを調整して受講計画を立てたのに、初日から他の行事と重なり出席出来ず、次回からと心して挑戦したステップアップ研修でした。

職藝学院の渡邊美保子先生の実技指導では、花壇毎にグループを作り、私達は「元気の出る花壇」と題して取り組みました。草丈を

抑えるための切り戻しのテクニック（その時頂芽優勢という言葉も知りました）や有機質肥料の使い方、根っこが大切と、講義にもあった土作りや土壌改良の工夫等これまで何気なしにやっていたことの意味を学びました。グリーンキーパーと頭取の区別もなく一つの事を学ぶ楽しさがありました。現地視察見学後のホテルでの夕食、親睦会等々、回数を重ねる度に交流も深まり、研修も残り一回だけとなった講義終了後、一人の提案から、高校三年生の歌を皆で合唱しました。「ボクラ、離ればなれになろうとも、クラス仲間はいつまでも」胸に熱いものが込み上げて来ました。

花は正直者です。世話をしただけ応えてくれて、唯ひたすら咲くだけ、そんな花に助けられ、無垢な花に心癒されます。私が花作りのボランティアを十数年続けられたのも、そのような花への思いと交流仲間との勉強やバックアップして下さった地域の人達の多大な協力があったからです。

これからは、無理をせず研修で培った技術や体験を通して、自分流に「ながあーく」地区の活動にお手伝い出来たらと思っています。

いつもいつも、担当だから、仕事だからと、助言や細かい心配りをして下さった係の方々に、心から感謝申し上げます。これからもこの研修が続く事を願っています。

12月1日に終了式がありました





いつも花たちといっしょに…

滑川市北加積地区地方銀行
グリーンキーパー 大澤 節子

北陸自動車道の滑川インターを降り、滑川市街へ向かうと最初に信号のある交差点が栃山交差点です。そのすぐ脇に滑川市のシンボル花壇の「栃山花壇」があります。いつも四季それぞれの花々が目を楽しませてくれます。

でも、その陰には、仲間を始め、町内の方々の並々ならぬ協力があります。春と秋、二回の植え付けですが、その準備が大変な雑草との戦いで、気づいた時にはお互い声を掛け合って除草はしているのですが、その生命力には脱帽です。でも負けてはおれません。みんなでがんばっています。

去年は、あまりの雑草に一区画に除草剤を散布し、休ませました。今年の春はさすがに草の姿はありませんでした。みんなで「やったーっ！」と言いながら新しい花を植え付けましたが、その花は育ってくれませんでした。除草剤が強すぎたのでしょうか。こんな試行錯誤を繰り返しながら何時の間にか自然との話ができるような気持ちになってきています。

自然には素直な気持ちで「自然体」で向き合うことの大切さを思うようになってきました。

小さいときから花の好きな両親のもとで育ったからなのではないでしょうか、いつもいろいろな花たちと一緒にいることが本当に楽しいのです。

家からは、玄関を開けると眼前に「剣岳」が迫ってきます。そして振り返ると富山湾から能登半島まで見渡せ、夜景がまた美しいのです。

このような恵まれた環境にあって、微力ではありますが「栃山花壇」を通し、みなさんとの出会いを楽しみながら、少しでも美しい自然環境を守ることに役立ちたいと思っています。

そして、何時もそばにいて静かに見守り、助けてくれる主人には心から感謝しています。

〈お知らせ〉

全国花のまちづくりコンクールで大久保小学校が大臣賞

第19回全国花のまちづくりコンクールにおいて、花のまちづくり大賞農林水産大臣賞（団体部門）を、富山市立大久保小学校（五十嵐俊子校長）が受賞されました。生徒が主体になり花壇やビオトープなど安らぎと憩いの空間を創出し、これらの活動が教育カリキュラムに組み込まれることでふるさと学習などの教育活動に繋がっていること、グリーンキーパーなどの地域からの協力を得ながら花づくりを通じて学校がまちづくりの一拠点として取り組む活動が高く評価されました。



第20回 花と緑のフェスティバル

日 時：平成22年 2月19日（金）～21日（日）
9：00～17：00（21日は16：30まで）
会 場：中央植物園 サンライトホールほか
入園料：大人400円、高校生以下無料



「ありがとう 冬を咲かせて20年」をキャッチフレーズに、県民生活の中に花と緑を活用した彩り豊かで安らぎのある生活スタイルを提案します。コンテナガーデン、早春の椿、話題の「青いバラ」等の展示やフラワーアレンジメント、アロマセラピーなどの各種講座が行われます。

表紙写真：ウメモドキ（モチノキ科）本州、四国、九州の湿った山地に多い雌雄異株の落葉低木 砺波市
裏表紙写真：片貝洞杉 魚津市



片貝洞杉／魚津市

花と緑の銀行だより 174号

発行日 平成22年1月

編集発行 財団法人 **花と緑の銀行**

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

富山県花総合センター

〒939-1383 富山県砺波市高道46-3

TEL 0763-32-1187

FAX 0763-32-1219

ホームページアドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1692/1692.htm>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

